タンポポだより

vol.32
2020 春号

―― 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ――

すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成6年版)より　詩／坂村真民「春の鳥と川」　画／海野阿育

坂村真民記念館
Sakamura Shinmin Museum

坂村家のアルバム

vol.2

六魚庵の徳利

父が逝いて三十三年
父をしのぶ何物も失われてしまったが
ただ一つわたしが持っているものがある
それは父が若い時求めたという
天草焼の徳利である
わたしは今日もそれを傾け
かなしい思いで酒をすする
父はわたしの鏡でこの世を去った
その父のかなしい思いを
ひとりそそいで父をしのぶ
ああ父はどんな思いで
この徳利を傾けたであろうか
短かかったが清らかであった
父の一生よ

とくとくとつぎ
とくとくとのむ
酒のうまさよ
世のつらさよ
ああ
とくとくと胸にひびく
雨の音よ
この孤独よ

玉名市立玉名小学校の校長室に歴代校長の写真が掛かっている中の一枚。
「第五代 坂村子司」

父の形見の
天草焼の徳利

真民の父・坂村子司（たねじ）さんの話をしましょう。母・夕子（たね）さんは、真民詩や随筆の中でよく語られますが、子司さんのことは少ないですね。

今回は「六魚庵の徳利」という詩を選びました。真民が四十歳のときに詠んだ詩で、その四十という年齢で亡くなった父親を偲んで、形見の徳利で杯を傾けているのです。〝とくとく〟と「孤独」が胸に迫ってきます。この孤独は、詩に転向したばかりで生きる道を模索していた真民にとって、降る雨の音とともに、ますます深まってゆきました。

真民の戸籍名は昂（たかし）です。明治四十五年、昂少年が三歳の時、村中にチブスとセキリが蔓延しました。父親、昂少年、長女トミさんが次々に避病舎に隔離される事態になりました。昂少年が家を出る時、お母さんが一番上等の着物を着せようとするとこう言ったそうです。「どうせ焼かれて死んでしまうんだから、そんな立派なものは着ない」と。死の予感というものをその時感じていた。つまりすでに三つの時、死という宿命を知ったのであった―と後年記しています。このことは、その後の真民の人生に大きな影響を与えることになります。

さて、三人は大事に至らず家に帰ることができ、一家は体力回復も兼ねて、現在の福岡県筑後市にある船小屋温泉に初めての家族旅行に出かけました。しかし、七月三十日に明治天皇が亡くなられ、小学校校長だった父親は急遽、一人帰路につくことに…。時代の節目の記憶も重なる旅となりました。

話は飛んで、八十年後、真民・久代と私の三人はその船小屋温泉を訪ねました。乳癌手術後の母の癒しを願って。矢部川に沿って宿が在り、石と石を細い板橋が架かり数本繋いで対岸まで渡れるようになっています。

「昔と変わらんなあ」。そして、父は私にこんな想い出を話してくれました。「お爺ちゃんがなあ、こう言ったんや。昂、あの板橋を渡ってみい。でも、こわくてよう渡らんかったんや」…。

文／西澤真美子

※六魚庵とは、早世した娘（茜さん）を含む真民達6人家族が住む小さな家の事。
※前号で、真民の父の名前の漢字を間違ってしまいました。申し訳ありません。たねじ→○子司×種司

真民詩とわたし vol.32

「先生の言霊に救われました」

阪井 健二 さん（55歳）

土生神社（大阪府岸和田市）の坂井健二宮司は、言霊を宿した真民詩に励まされた経験から、東日本大震災で被災した神社での絵馬の奉賛活動を通して、生命の尊さを説いた真民詩を人々に送り届けている。

◆今日の私があるのも先生の導き

私が真民先生と初めてお会いしたのは、高校二年の時です。大阪で高校を一度中退した私は、愛媛県の知人を頼って伊予北条にある県立高校に通っていました。慣れない土地で一人下宿しての学校生活になじめず、孤独を感じることの多い毎日を過ごしていました。

ある日、松山の書店で目にした詩集から、同県内におられる真民先生の存在を知り、突然手紙を出して「訪ねさせていただきたい」とお願いしたのです。

するとすぐに先生からお返事をいただき、「お越し下さい」というお返事と共に、松山のいよてつバスターミナルからご自宅までの道順をわかりやすく書いてくださいました。私は早速、次の日曜日に教えていただいた通りにご自宅を訪ね、タンポポ堂で初めて真民先生と対面させていただきました。

先生は七十歳を越えていましたが、どこの馬の骨ともわからない見ず知らずの高校生の話に真剣に耳を傾けてくださり、生きることに苦しむ同志のように私に語りかけて下さいました。

それ以来、先生からどれだけ大きな生きる力をいただいたかわかりません。

神社に生まれ育った私でしたが、先生の影響で仏教系の大学に進み、大学卒業後は実家の神社で宮司である兄のもとで十五年間奉職した後、平成十五年から同じ岸和田市内にある土生神社の宮司として迎えられました。今日の私があるのも先生の導きと励ましがあったからです。

◆生命の大切さを絵馬に託して

平成二十三年に東日本大震災が発生し、宮城県山元町に鎮座する八重垣神社は、津波で社殿と氏子の暮らす地域一帯が流出してしまいました。神社を守ってきた藤波祥子宮司は、真民先生の詩のことば「鳥は飛ばねばならぬ　人は生きねばならぬ」に出合って、心の支えにされたことを知り、私は藤波宮司を訪ねました。

震災で多くの人が突然亡くなられた一方で、同じ日本で自ら生命を断たれる人がたくさんおられるという現実に目を向けたとき、どんなことがあっても生命を大切にして生きていくことが私達にとって何より大切なことではないかと痛感したのです。そういう思いを込めて、真民先生の「鳥は飛ばねばならぬ　人は生きねばならぬ」の言葉を記した祈願絵馬に、亡くなれた方々の御霊（みたま）の平安と、人々が生命を大切に、幸せに暮らす世の中であるよう願いを込めて納めていただく活動を、八重垣神社でさせていただくことになりました。

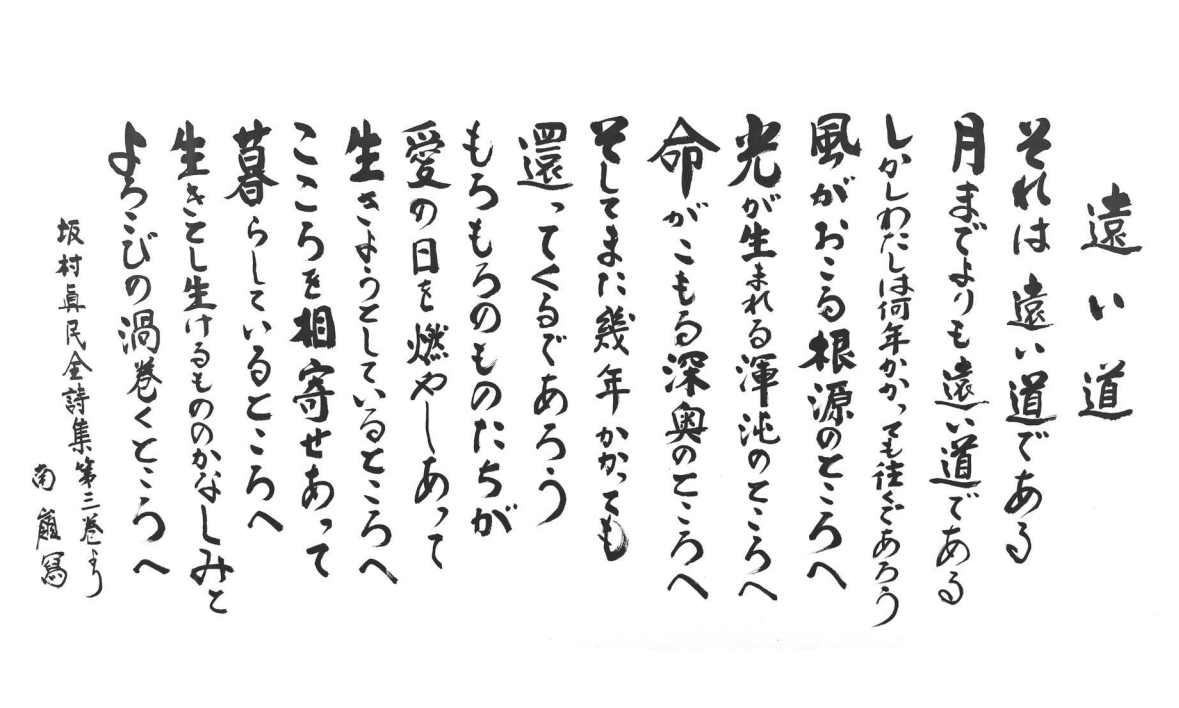
全国の心ある方々からの奉賛によって絵馬が奉製され、絵馬掛けが神社に奉納されました。絵馬を氏子の被害者と奉賛者に配布し、神社に願いを込めて納めていただく活動を、本殿が再建された今日も続けさせていただいています。

真民先生と先生の言霊（ことだま）によって救われた私は、ささやかなお返しに、生きることに苦しむ人達に先生の詩を届ける活動を続けていきたいと考えています。

八重垣神社の絵馬

真民詩を読み解く vol.30

「遠い道」



この詩は、現在開催されている開館8周年記念特別展「鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩」の開催にあたり、横田南嶺管長に特別にお願いして「管長の選ぶ詩」として書いていただいた「揮毫作品」の詩なのです。

坂村真民が63歳（昭和47年）の7月に書いた詩です。この年の7月に「詩国」が発刊満10年となるという時に、真民は「詩記」の中で『あと10年の歩みを開始したい。今私は63だから、十年後というと73になる。果たして生きているかどうか全く予想できないが、年令も何もかも忘れて、ただ一すじに精進してゆこう。』と書いています。

詩を書くことが信仰であることを考えれば、この「一筋の遠い道」をどこまでも歩み続けることによって、「辿り着ける所」が「信仰の到達点」でもあると言えます。

普通の人であれば、この「遠い道」をただひたすら歩み続けて、「その場所」に到達することに全力を尽くしてしまうのでしょうが、真民の場合は、そこへ往って、そこからまた何年もかかって、還ってくるという覚悟を詠った詩がこの「遠い道」なのです。

63歳の真民にとっては、一大決心だと思うのですが、これから何年かかるか分からない「遠く苦しい道」を歩み続け、そしてまた還ってくる覚悟を「詩国第122号」（昭和47年8月号）で、さりげなく詩誌の最後に載せているのです。この「想い」は、晩年90歳を超えて「私は死んだら飛天になるという願い」へとつながっていくことになります。

93歳の時に書いた「飛天のうた」では

わたしはこの世が好きなのです
だからあの世に行かず
飛天となり
みんなと苦楽を共にして
天から皆を守ります
（後略）

と詠っています。

また、平成16年1月11日（真民95歳）の「詩記」には『一つ一つへらしてゆくのだ。そして最後は無になり、空になり、飛天になるのだ。捨てて捨てて、飛天になるのだ。しっかりしろしんみん』と書いています。

真民は長い苦しい「遠い道」を還ってきたときには「飛天」になると念じていました。「衆生無辺誓願度」を実践するため、娑婆世界に留まり、多くの人を此岸から彼岸へ「度」することを願ったのです。

坂村真民記念館開館8周年記念特別展

「鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩 ～横田南嶺老師と坂村真民の心の交流～」展

開催期間 **2020年 2月22(土)～6月14日(日)** 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

入 場 料／一般600円(前売り券500円)、65歳以上・高・大学生500円(400円)、小・中学生400円(300円)

開館より8年を迎える今年は、鎌倉にある臨済宗円覚寺派本山円覚寺の横田南嶺管長と坂村真民との固く結ばれた絆から生まれた「黄梅院の掲示板の詩」を特集し、日本の仏教界でもっとも有名な禅僧の一人である横田南嶺老師がこよなく愛する「真民詩」を、横田管長直筆の書で鑑賞していただきます。

ひとくちメモ

開館8周年記念特別展「鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩」の舞台となる臨済宗円覚寺派本山円覚寺について

鎌倉時代後半の弘安5年(1282)、ときの執権北条時宗が中国・宋より招いた無学祖元禅師により円覚寺は開山されました。時宗公は、蒙古襲来による殉死者を、敵味方の区別なく平等に弔うため、円覚寺の建立を発願されたと言われています。円覚寺は創建以来、朝廷や幕府からの篤い帰依を受け、鎌倉時代末期には伽藍が整備されました。明治時代以降、今北洪川老師・釈宗演老師の師弟のもとに雲水や居士が参集し、多くの人材を輩出しています。

円覚寺選仏場

黄梅院

企画展のお知らせ
「坂村真民のまなざし～坂村真民が見つめていたもの～」
［期間］令和2年6月20日（土）～10月4日（日）

「坂村真民のまなざし」は、生きとし生けるものへの、やさしさと愛情あふれるまなざしです。しかし、自分自身を見つめるまなざしは、いつも厳しいまなざしでした。

真民は73歳の時に、「まなざし」という言葉に出会い、78歳の時には「まなざし」という詩を書いています。その後90歳の時に「千年のまなざし」という詩を書き、91歳になると、「宇宙のまなざし」という詩集を出版します。その中で、「宇宙には対立もなく、差別もなく、すべてが平等です。この心を一番持っているのが日本民族です。どうか、〝宇宙のまなざし〟を持つ人が一人でも多くなって、母なる星地球を平和で幸福な星とするよう、祈り願ってやみません。」と書いています。

今回の企画展では、「坂村真民のまなざし」について多角的に取り上げ、「千年のまなざし」から「宇宙のまなざし」に辿り着くまでの心の軌跡、真民が敬仰した人の「まなざし」はどんなものであったのか。「真民のまなざし」がいつも見ていた家族、生徒、生きとし生けるものたちは、どのように見つめられていたのか。そのことについて、真民詩の中から「坂村真民のまなざし」が分かる詩を中心に選び展示・解説しています。

どうぞ、真民の「まなざしの詩」をゆっくりと読んでいただき、「真民のまなざし」を受け止めて、真民からのメッセージを読み解いていただきたいと思います。

展示構成

タンポポ魂(全文)	幼き者へ(全文)
六魚庵箴言(全文)	待つこえ(全文)
二度とない人生だから	若者よ(全文)
念ずれば花ひらく(全文)	わたしの詩(全文)
ねがい(一人のねがいを)	すべては光る(全文)
まなざし(78歳)(全文)	かなしみはいつも(全文)
千年のまなざし(全文)	あとから来る者のために
万年のまなざし(全文)	両手の世界
宇宙のまなざし(全文)	衆生無辺誓願度

まなざし

まなざしを
変えない限り
戦争は起こり
平和は来ない

憎しみの心を
捨てない限り
争いは絶えなく
幸せは来ない

無差別平等の
宇宙のまなざしを持つ
新しい人間の
出現を祈ろう

「全詩集8巻」105ページ
「詩国41巻4月号」

本誌表紙絵の版画家　海野阿育（うんのあしょか）さん

画家の海野阿育（うんのあしょか）さんは、昭和18年 東京生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。鶴見大学女子短期大学部教授を歴任。現在は版画家として活躍されている。

真民とは、昭和59年「自分の花を咲かせよう」を出版する時に、鈴木出版を介して知り合い、その後の詩画集の挿絵も担当されて、真民と長く交流があり、砥部にも一度訪ねて来られたことがある。

記念館の開館に当たり、詩画集の原画をすべて記念館に寄贈していただいた。

平成6年から発行されている「心のうたカレンダー」は、真民詩をモチーフにして海野先生が描く独特な版画が人気があり、現在も継続して毎年発行されているものです。

「自分の花を咲かせよう」
昭和59年4月発行
真民75歳、海野41歳

「花一輪の宇宙」
平成元年5月発行
真民80歳、海野46歳

「あうんの花」
平成4年5月発行
真民83歳、海野49歳

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

株式会社 宣翔物産
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曽木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 http://www.nagiso.co.jp メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院

To-be
介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be
78個室/20㎡～24㎡(1F&2F)

M To-Be
住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
18個室/2LDK 40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

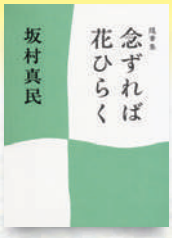
サンマーク出版 坂村真民の本

詩墨集 筆の詩(うた) 墨の花

●定価＝本体 3500円+税

坂村真民記念館所蔵の作品を満載！

随筆集 念ずれば花ひらく



●定価＝本体 1800円+税

初めての随筆集を復刻！

詩集 念ずれば花ひらく

10万部突破の超ロングセラー！

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 宇宙のまなざし

詩集 二度とない人生だから

詩集●定価＝本体各1000円+税

サンマーク出版
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
http://www.sunmark.co.jp

宮城県の徳真会グループ 歯科医院８所、歯科技工所１箇所、保育所２箇所

徳真会グループの想い

医療は人なり

徳真会グループは、１９８１年新潟県の旧新津市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といったどこにでもある様な歯科医院からスタートし、以来40年間、常に患者さま本意の歯科医療のあり方を追求し続けています。また、国会依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを行ってきました。

現在、年間80万人の患者さまにご来院頂く、世界最大級の歯科医療グループとなっていますが、時代先駆の組織創りへの挑戦はまだまだ続きます。

新潟、宮城、東京、大阪、福岡に 32 医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ　検索

www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧下さい　坂村真民記念館　友の会　検索

〈編集後記〉

今回ご登場いただいた横田南嶺老師が高校生の時、書店で真民の本に出会い、読んで感動し、手紙を出すという実践をされた。それが開館8周年記念特別展に繋がりました。出会い・感動・そして実践― さあ、坂村真民記念館でお待ち申します。（真美子）

タンポポだより vol.32 春号
令和2年3月1日発行
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705　坂村真民記念館内
TEL089-969-3643　FAX089-969-3644

［坂村真民記念館］
開館時間／9～17時（入館は16時30分まで）
休館日／月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円　※15人以上の団体は割引あり